

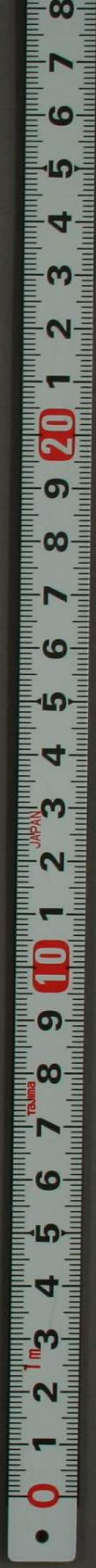
勢陽
雜
五

飯高
垣鼻
松坂
郡

飯野
早馬
瀬
榎木
榑田
郡

多气
郡

特別
ル
4912
5



特

門 4912
號 5
卷

飯高郡

松町平尾ナヒラウ

日新松ケ島町今ト云日大平尾



日久保田

日大塚

日鎌田

日石津

日荒木

日大口

日江津コウ

日高町屋

日東岸江エ

日西岸江

日矢川

日塚本

日船江

日藪西庄

日松坂

松大津

曰上川

曰驛マノヘア田

曰内五曲シテゴマカ

曰野村

曰井村

曰伊勢寺

曰藤木

曰田村

曰西野ニシノ

津上蛸路

松寺井

曰大河内シホカハチ

曰勢津セイツ

曰田原

曰下村モ

曰大黒田

曰外五曲

曰田牧タヒラ

曰火足ホアシ

曰岩内イワチ

曰阿秋アキ

曰立野タテノ

曰桂瀬カエ

津下蛸路

曰山村

曰廣瀬

曰六呂木

曰垣鼻

曰久保

曰小黒田

曰曲村

曰殿村

曰深長フカシ

曰八重田ヤヘタ

曰墨本

曰丹生寺ニウテラ

曰山室

津八太

曰矢津

曰坂内サカイ 辻原

曰上原カミハラ 原田

松下茅原田

日鎌形ツハカタ

日丹生ニシ

日下出江モイグエ

日上出江

日小片野シカタノ

日大石

日深野

日横野

日下仁梯モニカキ

日上仁梯

日形見カタミ 端井赤瀧ハナヅミ

是ヨリ川俣谷ト云

日下瀧野

日枇杷野新田

日本地木屋

日瀧野ツツ 蛇野

日下朽川モトナ

日有馬野

日高山

日神原カケノハラ

日野々口

日神殿カウダン

日赤池

日作瀧サシタキ

日赤桶アカケ

日田川

日下栗野モ

日上栗野

日富永

日朽川トナカハ

日七月市

日谷野

日深野

日大飼

日柏野カシハノ

日家野

日久谷

日大俣シホ

日塩ヶ瀬

日猿山

日蓮村ス

日し栗栖シトツルズ

松加羽 カバ

日落方

日朽谷 トキツニ

日舟戸

日桑原 クハハラ

日草麻野

日木梶

日月出 ツキデ

日波瀬 ハセ

日青田

ト百十二村

外小村四

一高四万三千七百四十八石七斗三升三合

内 三万二千石四斗四升一合

一万三千五百四十七石二斗八升八合

外高四千百三石四斗七升八合

田方

畠方

新田

一河俣富長村より和州への道あり新本

一河俣波瀬村の内月本村より和州への道あり牛こぶ不
通と白髪越といふ

一河俣波俣村の内落方村より和州への通路あり新本
跟離し仰えといふ

一河俣舟村より和州への道紀元は遠路を離れ
二十三町より之の嶽北南俣より足跡越と云ふ山より
舟より河俣大和の境月や

一河俣谷より材木出の樅モミの角丸板帆柱等橋田川
の上廣濃村と云ふあり十分一は運上紀、太守、貢ツク、商買、
材木の代、ミテ川下、黒部村、着リ、ヨリ諸方へ船フネ、

一松坂時城主紀元、大納言、伊保領、高松七万九千八百三十四石、斗ト、
人家三千軒、富人多シ、以テ十鐘と徹チも、近來、松坂掛、
薪茶、凍、昆布、石、名物

西の庄、此橋方、中よりあり、長、北、水、出る
代代、石、の、坂、と、云、く、曰、ま、百、歳、と、云、て、名、は、ら、る、と
伊保村、田、田、立、る、分、森、の、所、も、と、云、ふ、と、云、ふ、と、云、ふ、の、と、云、ふ

元龜元年小田向長助と云々初て城をまつを代り
天正十二甲申年蒲生寧相及京氏錦國司此領知行
如くし少くは北島北右衛門尉と云々小田の知行も
秀吉所奪し如くしと云々是以京堂と云々此領を
古蹟地所と云々といはれ此島花津陸路をよこせぬ
つて初めは小田住し如くしが天正十六戊子年
高野四兵衛半小田外郎と改て改改と云々
氏錦代城跡と改めし時近郷隣里此堂社佛閣
及石瓦よむと云々之覆捕暴逆なり
事と云々

少のり家の人と云々城に病ありて近來は秋卷の
栢と云々しと云々此島と云々小田川小田系と云々
分所此島と云々しと云々今萬石と云々奥州會津の
陣(初)より此島増禄して百萬石と云々一と云々
と云々校系と云々と云々小田作しと云々
去度服部宗女正三と云々と云々長五度と云々
右田島が捕城と云々と云々六石と云々と云々
と云々其子二威の幼雅と云々此島が捕第大膳大と云々
是乃知と云々接しと云々此島と云々と云々
家系

家康公命を以て流しつた大抵なまのついでにまよ
し兵部が懐が子と預育のしー成長のら又
太清ののちをなうしし家 家康公の地
なる之屋直と感しおよこくをりて元和六年
比六万石の領知と流し又が家財本具等もあつ
ししてお外流すこも身は東武ふ潔白とたのし
出柄も留守しはるとえ

古田兵部防人の執事

一慶長五

幸石田法部が輔謀殺し所九鬼大隅

守

一陳一て和別中多郡多姫を也ち杉本河内
も等とのつこひ位現れ周へ礼人へへさし
中しし右回右部が輔松坂福原を死四九談
公一して漢願迄あし織炮と目さし
敵へやさささささささささささささささ
ささささささささささささささささささ

○多勢谷
河保谷五
筒方江所
六ノ兵ヲ
催シ

一大口 シホクチ

松坂より良
二十町

人家百五十軒余 高買運送

此船つひとありし

一 船泊村

松坂より北
リ程七町

利勝山薬師寺 院号と延命院と号しと系宮此路
此傍より文法を中へ後鳥羽院乃草創也
堂伽藍此靈徳寺なりしとを数度改め其元
寺堂悉く焚くしてやくく本堂二層半あり
此の寺本寺此薬師如来の行基菩薩の制法
なりと云ふ石の毘沙門勝也此二天并十二神将と安
置し此の門前の二王童子の運慶乃剛化ニリウカクと云ふ
是れ此の寺の社殿ヒコクなる所なりと云ふ

予以本堂二王門日川ふ送立——とて真
此所門住居し侍なり

船江夜全載

永禄十二年申年八月船江乃城も方への道加火
本回美佐守と人なりして小原左衛門右兵衛村方
同西邊方より一撥十文字一撥稍籠し経るを
て小送とて軍評定の時混雑の地とし御兵庫以
ト左邊船江北端の寛寛の者な故由籠り侍家
船小原易とて攻めかゝる——とて彼が回美佐守
し御兵庫以の聲なりとも小原御親原知がらるべし

伯父右馬尉代て下知しとて信長思案して
其枝とてそなはれ新小原の船——とて船江に
船山際外をうけし御六りの水河坂乃城と攻む
とそととて時々——とて船江の南端寄中
とて信長坊と進級し分捕るる——とて為教多討
捕るり又翌九七日此取信長坊山際と押して南
へ進み船江公門六郎右馬尉御夜もとてとる
ゆを切さぬとて御法率外もとてとて

むといひていふ山色は常々有るを中て不
これを撃則に利ありと云歎嘆夜子数多し
て救済しを原知小勢少くは利を向て
割しうれす不用して吹取れく小令隊子
おさるさうと新いせれあ之のく歎きて能る
ゆたれえ如くもたへく小守有敗軍して一志
郡乃住人長及十郎元其村是男共七郎樂師寺
芳清法印以下数等討死と云く叔信長親
取よとてり也さう法塔塔ありりも船江の如口
曾原此天を了皆中付黒船村へ馳向い夜討中
て数多し捕る也さう

本田江籠城付盗出人質

天正十二^{甲辰}申年中田九京亮親康の船江の城に据
し親康の年中村に居る所諫を依て秀吉小心を
合せしれよ息子結老と人質小出に頼成り
たれいよ小も一と盜りたはひ隠小之隠成り
其所勝政をかういりす(キ)と密後しん

勝政やそしつらん二月十五日は坊小留され松が
北城小入田ヒコノの坊より争ひ合戦と挑ヒと曰えの敷子
勝丸と盛かき其のかりきい争ひせえんを
付為人とおろし討捕じと千五百人三方より進
つ勝政を内へおろし事故りく船にせえを
虎口をのりしかを家働アウラシ工能とをりいふ
能くも本回城をほく守つと出たるは敵軍を
とこらふに決り滅亡——と云ふと云ふ

一 堀坂山堀坂山

佐野寺村の山上に社壇あり竜天

権現なり延喜式神名帳に堀坂神社とあり
いとこれ狂言に夷しくおひしきく佐野の
おひしきく佐野のつむむをわらうとつむむをわら
さのしきことと云ふ

一 横瀧寺

松坂ヨリ西行程一里半
伊勢寺村ニアリ

惠雲寺、伊勢寺村ノ山上ニシテ他ニ異ナル靈場ナリ
リ本尊ハ行基菩薩ノ御作金色坐像ノ阿弥陀
佛ニテミシマス東リ前ニム深谷出々トシテ溪水細ク
流レ西リ後ニム山岳峻々トシ松林枝ワリ碧岩峻々
トシテ舊苔露滑ナリ北ニ連峯疊々トシテ草木
繁々トナリ南ニハ一條ノ瀑布冷々トメ鎮ニ煩悩ヲ洗
イ山月高照シテ毎明眠ヲ寤スリ国ノ佳景此
処ニ尽ス誠ニ靈佛相應ノ境地地致衆界清淨ノ道

場ナリシニ元弘建武ノ逆乱ニ大破ニ及シニ應永永六
年ノ春三月ノ比ヨリ何トナリ五日十五日廿五日ニ度ノ
縁目ニハ貴トナリ賤トナリ現世ニ安穩後生善所結縁
ノ衆諸群ヲナス或時同郡ノ近里ニ莫太ト云へル処ニ
貧窮ノ田乏アリ其名ヲ次郎ト云フ早ラス何ナル舊
業ニカ遍身ニ惡瘡ヲ生シ心身苦痛甚メ止ムトナシ
医療ヲ加ルノ便モナクムテシソ日月ヲ送り侍ルホトニ
貧苦病苦日々ニ重ク親キ者モウトクナリ疎々里人
ニハキクマテシ悲歎骨髄透テ今ニ現世ノ望マシ後世

善心ノ菩提心ヲ起シ念佛三昧ノ外他念ナシ有時此
靈場ニ請來テ毎ニ舟誠ヲ抽テ前世ノ惡業重ニ
テ瘡病平愈ノ感應アルマジキナラバ後生ヲ助テ給ヘト
斷食ノ祈誓シ侍ルホトニ三日ニ當リ夜ノ靈夢ニ老
僧來テ去汝宿業ノ重病ニ治ガメシトイフ此間ノ
念佛斷食ノ願力強盛ナルニ依テ願望ヲ叶スレ然
レバ惡瘡平愈ノ三十二年ノ後夏土ニ趣ヘシ亦病ヲ不治
メ八十餘歳ノ壽筭ヲ持ヘシマ汝カ望ニ任スヘシト有
シホトニ夢中ニ答去カレ業病ヲ交ニテ二十年ヲ

ル何カセン唯子ガハツハ瘡病ヲ治セシメ給ヘト云
老僧去然ハ針ヲ刺ヘシトテ惡瘡ニ針ヲ刺シ給ヒ
シカバ其痛ニ夢ヲサメテシハ通身ヨリ血流テ如浴
シテ六月過ニ惡瘡悉ク平愈シケリ誠ニ有ガメカ
リシ奇特ナリリテ三年過テ霜月十五日ニ臨終正
念ナリナレ見ル人同ノ後世をモイトメクモシツゴ思
侍ル是ヨリ自國他國ニ具カリシナリ種々ノ疾病痲
疥依願感應アリ或兩眼失明セシ者忽チ同テ杖モ
琵琶モ御宝前ニカケテテ奉テ歡喜踊躍ノ飯ルモ

アリテモトニ衆生済度ノ利益ムナシカラフカニ傷仰目ニ
アツクシテ本堂新堂物門庫司客殿浴室東司
ミマツマン 莊嚴キヨウカナルモ利生アウツルモトトウト
カリシヤキナリ

一 立野神社 タテノ 延喜式 神名帳小なり 仁坂 坤行程
一里半之沖村小なり

一 下村 モ 仁坂より巽行程九町程
沖産ノ内

遷行要畧 享仁天皇廿二年 除^冬十二月九日遷^リ飯野高
宮奉^リ齋^ニ四ヶ年 于時造進 刻其旧跡富村神社とて或人
の乞飯也於山流村神社此小もと小ありの神是之云言
よて何より沖山神社といひ飯野那の内なるはまは
此より人の大倭姫世紀二十二年 癸未三月廿八日遷^リ飯野高
宮奉^リ齋^ニ四箇年 于時飯高縣造祖^ト加豆知余并汝國若
何^ニ同賜^ヒ自^ラス意^ニ須^ヒ此飯高國止^ニ白^ク而進^ル神田并林^ノ倭姫
余飯高志^シ白^ク奉^リ貴^ク止^ニ祝^ヒ賜^ヒト云々然^レん飯高の歌云

四年ノ所西所共
是奉如此

戸小らるへさよりまをりし初塚初左の代よりかほり
みまるとみたり

下樋小川と云まにげ取らり下樋村別下村と云官の事
小河をさると下樋川と云神名秘書九二年冬遷飯野高宮
四箇年身齊然後倭姫余向飯野下樋橋際乃し若
子余以麻神等靈等進倭姫余而後解及陪從之人
留弓弔兵共此處止鈴聲為解除此其後也神祇式曰凡驛使
入大神宮場者到干飯高郡下樋小河止鈴聲
亦取石首焉よきくと樋小川の橋たて川後一之代此よりけと 長

又云以下と云亦銘言に休之奉に云往者此や蒲乃若天
降ことこれより休戸六師小園と依り延より産業と云を
寂初の蒲由今小休初よりと休之奉に毎まきつて是と獻
しゆ右例りつことと云亦戸六師と久保の大津田上川下村
驛高恒泉

一 毘寺山 純松寺 松原の市中に城中大より長の方公此觀をきりてあり
我武天皇此初に依り天平勝宝元年八月十一日建立し
此よりなる如意輪觀音と云長三尺二寸余の之像と云

また修行の深さ其の二見のついでに三津五郎正信と
之者ありに決り漢の身命とやういふことかく後
り—を殺すは家業と—する後其れ悪果とつけさ忽
心作意して常小親世を此佛名と憶念してある所宮へ来
詣しはるある時立石の海濱と徘徊しる所ありて光明
稱する佛像はほほい然と見えしはらうか如き小
れあけをり速極に安易しといふ信心得仰せりて大
ある取老人となりて語て云く是より坤より石津の思寺
山と云霊地は古佛説法の道場なりといふ久くは

如と—之の後此の如く親向の如く三津と三川
めなる大蔵林大山祇命豊玉姫命を我れ亦也
天女といひといてえんは別云ふ由をてけ如く好
まの彼方也又とあるは法身といふ里霜後て後継松
法師といふ是戒真実此僧あり朝暮此修行おこすに
る敬敬重し—する菩薩の誓いと世に弘く利益あり
うて如ゆるれお寺と絶たるともいふ又如意輪院といふ法
師三津正信の化現といふ山号と本思寺山といひとい
と正應五年八月十八日^{十五}に別山即伊賀此野人といふ山名京亮

行武と云人ありて之由是此助カと信り親を大日堂儀
摩き并山内修守七休の神離意并具し信り少人并具
建立の氣と是山の一字とて是と云ふより如く信り此
寺社葺田丸衛門佐宣貞造と云ふ

一大河内ヲホカハチ 松坂より仲
依程二里

布不綿と瀑と事と好く倍されりは信りし
此寺に

北畠具教大河内義隆

北畠中納言具教トモノリ以永禄の末に織田信長公ヲソリ藝イ在

この一少し一及多氣の要害ト云しは
とそ之志初細頭チウソミの屋敷と信りしは
また細頭チウソミの日並大膳ニヒナリ亮と信りしは
故郷と信嬌子信意ノブイと云ふ大河内カハチの所信と
信り具教トモノリの少氣初大佐オホササの屋敷として入道不
知と云ふは信り次第了織田家ト云ふは
二友家と逆心して織田掃部オリノ助ノを信りて今徳乃
具山と小寺上野此友と挑チカの難い公我やむ

那 院子水縁十二に二年二月信長南信坊と
攻へまゝ一々ししは日密大膳亮近き騒動と
少細頭と自焼して大内日く馳来り所と苑
城乃後合一也と先大内日改め大内下貴門
入道不智山本取信意よ相從令とと次男
長野乃下口丸居下坂内法下波濃所は向の法
下東の法取又改の法取下下の法下園の法所
幸中死源守子息死十郎方徳氏初少補林備後与
子は新進侍大将も馬屋尾石見と子と子と

後、耐司石近の監水各刑初少補と志及次郎盛保
美狭守と志大膳少悔岸又二年一安保右馬允
磯田長右衛門初少補源九郎子と羊右衛門初少
川長馬允野と志近の監山初長馬助長野九郎と系
亮朴本集人正日並大膳亮正并共初少補と志初
次郎星合と後耐猶と初解由と安所同と日郎
象本主水佐石橋法初大内田上と長馬又棟原
法守山と後と初少悔真柄宮内と近司初進と保
秀河守松山管右馬耐山室十郎と近司初保と

柴山長九郎水也孫二郎大西平之郎三郎
竹五郎九郎大内山但馬守山信大炊助阿曾彈正忠
下村仁助潮田長助神戶治入道重誓執回原共
衛入道玄齊其外小胡曾方出江方湯京方宮田
方縣松井方須賀依波志貴湯後方神條中
村方寺郷王相方黒田中津方菅瀨後志方伊智
寺久成五郎仁也府牧野方加藤方廣田佐友仁馬
廣徳明壽栗谷山峯森し栗柄田方家野奥村
福本栗野飼加柳瀧野馬場五箇六口本波多

浪山副谷三田満中^{トシ}新^{トシ}是村福田山^{トシ}御^{トシ}林^{トシ}夫懸^{トシ}坂内^{トシ}捕
見^{トシ}孫山^{トシ}已下南五郡の軍兵数代^{トシ}は^{トシ}一^{トシ}て^{トシ}捕^{トシ}獲^{トシ}
城^{トシ}北^{トシ}外^{トシ}輪^{トシ}と^{トシ}二^{トシ}重^{トシ}より^{トシ}兵^{トシ}糧^{トシ}又^{トシ}は^{トシ}たく^{トシ}く^{トシ}
堅固^{トシ}小^{トシ}さ^{トシ}り^{トシ}し^{トシ}中^{トシ}く^{トシ}あ^{トシ}や^{トシ}ら^{トシ}ん^{トシ}だ^{トシ}ん^{トシ}り^{トシ}
北方より北邊より今庄山城と奥山常陸分小
森上野より及方入道より由小邊より小邊より依
八田^{トシ}城^{トシ}より^{トシ}和^{トシ}兵^{トシ}部^{トシ}の^{トシ}捕^{トシ}獲^{トシ}の^{トシ}城^{トシ}より^{トシ}大^{トシ}宮^{トシ}入^{トシ}道^{トシ}
船^{トシ}の^{トシ}中^{トシ}右^{トシ}尾^{トシ}の^{トシ}所^{トシ}より^{トシ}京^{トシ}の^{トシ}城^{トシ}より^{トシ}大^{トシ}花^{トシ}の^{トシ}小^{トシ}次^{トシ}郎^{トシ}
岩内乃城より岩内山より谷より此侍同く一七捕獲

し得よきをわきまなく攻入るを御座りてんはりま
このまゝのまゝおありて三好家道心の支あつた
信長公大場別致向と申上格一はしを云

大内合戦

一永禄十二己酉年八月十九日信長只以後の城と攻捕され
より因司信意等の指免するより大内内御入押お
娘其時都合七万金勢と申すつをい城小野津
も大内内御入押お大内内御入押おのかけり
能進子の度攻の山搦と申す為攻のち望九九のり

拂曉の夜と攻口一等小練波と申けり後地の編者
谷と震動するより影し城中より日置大根亮家
小祐安保人等が捕長野丸京進本四丸京亮等一人
も千代曾士仁と重し義と諺ひ防る物より
下池田街之上信輝度攻口より攻入すと申す
北府八木藤右衛門尉等より川内守と申すを
小泉より攻専途と相執り麻虫漢をい入る
戦いするより川内守と申すをい討死
してより抑お大内内御入押の境地七尾七谷嶺

奇ふうら〜〜〜同日のむかひ事なり洲のけの
さと自在なれど毎夜音年年少利かくて河及
るんへま〜〜〜同日下知〜〜〜
〜〜〜此後攻居るは以前より子へ入夜討也
〜〜必得利〜〜〜のむかひ白丸宗亮よりい
ぬ百詰とくら九月始〜〜このころは民家寺徒
道下全のさる丹と寺へ水分一厨と壺とちり
き〜〜此れ〜〜同章陸動もいふよ〜〜
六着討捕心〜〜〜同日のむかひ事なり〜

大將威悦あさつは〜〜〜とをかく〜〜〜
〜〜〜し〜〜中〜〜信長久信を〜
何とぬ智謀といひて攻へ見せり〜
池田信之信魁母の五命に其の村長秀頼を入道
一徹彼等三人誘合〜〜九月下旬の深夜〜
新居庵にり水討〜〜攻入をいふも〜
〜〜〜日置大將安保人秀本〜長野丸
京守城を〜やむと〜ありや〜治新ふ
晴中のころ〜〜款鳴〜〜小畑のあや〜

わしのお言葉とて入をせられてお殺し
はなも家子利を失く利へお日語八分故由
海流道ねを及ぶ神戶御存と同口家分山岩多
後法不寺は流の舟津馬助も及五古川久助
河野三右衛門松久生御鈴村の馬先彼等十二人
ありしと少く殺したる事不足くや小川
遊まさしくお水責へまを返す月々望月なる
一はらとかりあるは川をとり益十日
上旬の比信長がよしとてかくししははら

得るより主念のおまかりを北集一戦とて一と度信
て由国此法卒と川奥して西の方麩虫谷の攻
のちりしつじ城中よりり汝炮をくげしを打もる
なり討つて若敷をとつて人々の死せること各々
はらとつていさよとていさよとていさよとていさよと
つとつとしるを城中よりり汝方此作はとつていさ
なり火とてあがりなきことよとていさよとていさよ
しきれえ各各座へまこれゆら紙と下しつていさよ
うとどるを此川攻めぐして川道とていさよとていさよ

名をて攻めをきしむらんついでに長陣とてをる武所
信長公桂嶽山の老をを人ふい大なるのちせ城中の
向いにくもるる大股陣の候くついとくふりや
まらん城中のまこと突お列移の家の子流し中
赤松の万助秋山志原物とて三人よりせよふりあむ
流し中とてしむり村とて信をね流し中とてしむり
畏て大なるよ大衆とついでに射を敵味も見物をも
子共希四五所を射流しあやまらん彼人のあむり
松山に射つぬまをね信長公とてしむりあむり

の童と感しをれ人国司とて感ふのちなつてしむり
板城中の野呂ん也ぬ登道心の廣謀りのあむり
昂けの討つとてしむり何れもは城中空國とて五
十日余の籠城をねしむり各糧尽るのちしむり
幸島金尾石見も智謀をぬのとらねし初り流
卒に終とてくつと國日父子とてあむりおと儀味と合
をふとちこかくてしむりあむりしむりあむり
信長公の御白旗お助とてしむり和服の内通をねし
國司のものと朽木年人佐城がお護のしむりあむり

信長より次男信康養九十二歳におおふと具敷トモナリ
 邦の事信憲ノリ此妹等お邦一信憲邦乃邦名一
 しこれ織田掃部助外お見の邦守おはしけん
 しかる由まはる所城戸田野助又野仕九段の所
 林豊前お足助十命おはる所小幡孫曰く安堵お盛林
 子お所池尻おはる所津川おと所おはる所
 ことおはしりおふぶいお小造お長長お治院お還
 俗して津川お所お是所おはる所松橋お是所おはる所
 彼等お人おしておはる所おはる所のあま二万おとわ
 副てお茶養丸おまいつおるおるときお船おの茶
 即堂お陣として津川お近將監執権者おはる
 おふおころお津の城おはる所お副織田上野おは
 信兼お主としてお津おはる所副三万所
 信孝を主としてお津おはる所の城お是所おはる所勢別
 小幡五郎を副津川お近將監おはる所おはる所志書
 のはる所小幡貴祿を下しおはる所おはる所信長お正月
 十日お信紙お上系おのりておはる所平均のお近將上
 おりお義昭お是所おはる所て國先の御服務おはる

此よりまた國司は奈美と船に渡り討出
し終ひ親子共盟諾いと懇切なりぬ三年とて元
亀二年ノ夏船中の故とて家繁の御式も用ひ
て人ほ内河の故と初述北高白屋三弟信雄公とてあ
せんふるとちと

北高がぬ河氷のの家集よ人ほ内河の故と
の初つとていふとて

北高がぬ河氷のの家集よ人ほ内河の故と

一 大石村

北高がぬ河氷のの家集よ人ほ内河の故と
イモス
く

北高がぬ河氷のの家集よ人ほ内河の故と

一

一丹生大明神 松坂ヨリ未方 天野宮是也弘法大師

異本曰 天野宮遷宮ノ時分外宮ノ長官來ル申リ 同基の地と云説モアリ空海ノ御影堂及直ハ言宗

社家十七人アルニテリ鳥居ノ額大師ノ御筆ナリ獅子頭ニアリマシ の住侶アリ丹生山神宮ナシヤクト号ス毎季十二月廿一日

御影供ト云事アリ琵琶が池ト云テ琵琶島シ

ケル長九四五向ニ横八向計ノ池アリ池中ニ辨也

天ノ社アリ丹生ノ在家一十軒計アリテ民屋

富メル景氣也此所ヨリ古來曆書ヲ編出ス水銀

山アリ目杖他地ニ每シト云ク近季掘絶ケリト云ク

丹生ハ依ハの湯ハ詠ハ飲ハト云クある上回と云所ハ丹生村ト云

かのく此里を上回村と云

同十二番イ丹生ノ大御堂トケリのあふイ神宮寺十一面觀音

秋子ハ依依のこくもゆくとに及せんとそのの のガ

延喜式神名帳ノ丹生神社又丹生中神社とあり

丹生大明神之儀軌 高祖空海撰 此文段可為後人作

延暦二十一年歳次沙内空海ハ奉請天照皇太神宮之砌

依テ御告勅住ス法樂常明寺ハ彼寺ハ善記元承ハ千歳次繼

體ハ天皇依テ天明ハ在天照太神宮御勅記ハ建立ハ七間ハ一

宇ハ瓦屋ハ内ハ無ハ躰ハ每坐ハ不知ハ為何ハ天下ハ人民ハ彼ハ爰ハ上ハ宮

伊弉須禮ノ
孔所十二番目
ナリ

太子十二歲春吾今歲欲奉奉天照太神宮鏡常四
季歲次壬辰奉太神宮御勅託曰為始上宮公卿大臣常
耳明可聞我國皇豐大神宮御田邑之結緣生鬼神
精于取本朝神產國也念過去久遠劫世佛出現說法吾護持
所然今釋尊涅槃及正法既像法今來吾持尊顯在
常明寺曰顯在御本尊自覺他覺自覺覺他覺行圓滿法身究
竟佛東方過去久遠劫佛母之戲論如來西方慈觀大
士佛王威持正法明王如來十十大士圍遶故速曉其靈勤
尊勤宗勤操諸法護持高祖皆住之祈威福云云空

海欲行是寺住矣延曆二十歲次今常明寺住每日
六次奉宮兩宮鎮座白仰願天照皇豐受西大神
宮吾授圍遶供粮檀那特成福力令遊行二國為佛
法捨身舍利末世深信心入觀攝心卧子起寅汲澗仰水
登空年猶密不懈怠行祈于日來臨一人天女在日晝是
奉請天照太神宮勅託為可成佛法且隆檀那故來
矣今可奉見吾住栖見給定可入御深急以是渡唐
仕給為佛法可有御行向每月旭復戴頂之與在實
益高祖深秘是頂戴在正可有國主大臣護法歸

銅非也
可作同

朝右可為吾一人長男檀那曰末金就鳥還幸在空
海忝皇太神宮親成化女來臨在田心名延曆二十三
五月十二日在渡唐唐朝長安城奉遇青龍寺惠果
大和尚大法秘法化寫執在相美云唐帝奉柳留
敬依供養如佛在世雖然空海感日域給拜儀軌密
教繪像增法治世安樂重寶令未得敢朝仕給事大銅
二歲次八月國家安下大國家康殿天皇御宇也先於小室栖三古寺
令行任天下金民園遠供養如市於是空海與大僧都成
天下法務任東寺長者日集八宗生僧企宗論各欲離

吳二日
百三三唯真上二

雄露顯當目空海宗之權教雖揮文珠智富樓那言端
不正內證真實唯直言法中即身成佛於諸教中
闕而不書矣往昔法相源仁僧都任唯識唯心三昧給
禁裡泐水三論道昌禪師入八不中道觀念給句心然
燒失禁中矣天台寂澄禪師立草木成佛南殿枯木
令咲花云云華嚴道推律師任十玄六想觀法取
鈴杵投木床為獅子吹迴鳳池云云其日空海大僧
都先任之字觀龍廟燒失任之字觀林不裡為巨
海次任大日如來六種震動出起七寶莊嚴殿獅子

座自虛空中而五知宝冠勿心正身金髮也成大自來
當日帝王紫宸下謹作禮拜大臣公卿五膝投地
小宗比車晴疑心皆入高祖室中而受法先法相源仁
真雅僧都為遺弟受法之論道昌轉法輪寺入空
惠室受法華嚴道雅西止淨照院實惠僧都為
遺弟受法天台寂澄高推山直濟附從空海始
傳法灌頂令授與然而空海弘仁七曆歲次丙申為兩峯
結緣先入葛城入紀州於粉河寺奧給日遇入獵
師曰為何空海薩摩入此峯空海答曰五寶天我朝
為法胎雖經位大僧都為未行令行道金胎而修欲
奉祈國家安寧亦在一願吾延曆季中天照皇豐
受太神宮威福奉祈得故三國傳灯悉地成就又自大
唐投三杵五杵五杵在秋有東寺獨古杵丹波州獨古
投杵在秋依伯山今一杵三古不知在所故立三古寺行
杵不見其靈驗皇豐太神宮有御告間入這峯
加之皇太神威福奉祈得其眩檀那御神誓奉
遇耳當日獵師大笑曰吾是為檀那給神明第一
子吾母自是當東在吾栖所給是在三胎自是當

護天

坤方^ニ在^リ靈地古佛說法^ノ初久絶結^テ後非^ズ今道場^ニ奉
天照大神宮目^ノ之^レ仗^ノ御影向所也其山在^リ護法
導師來待^テ蒞^リ此^ニ三昭^ニ六^ニ取^ニ中^ニ放光明護持^シ奉皇
之^レ仗吾^レ每^レ由^テ御神所在^ニ衆間不及^ニ引攝獻^ス是
大任^テ大行路終日奉^テ授^テ白黑^ノ大^ニ正^ニ空海^ノ隨^テ大行^ノ今
到^リ高野見^ニ寂^ニ松枝有^リ三^ニ栴^ノ高祖奉^テ礼^ス拜^シ曰^ク是^レ之
三世^ノ了^リ逢^テ寶^ノ普賢^ノ肉身^ニ三^ニ昧^ニ是^レ法^也被^テ御^ノ袈裟
行^ニ受^テ令^テ頂^ニ戴^ス二^ニ足^ニ大^ニ曰^ク汝等^ノ是^レ普賢^ノ文珠^ノ二^ニ音
薩^ノ為^テ助^ス法^也爰^ニ命^テ禽獸^ノ奉^テ皇^ノ太神宮^ノ檀那^ノ御神^ノ在所

奉^テ引^テ攝^ス宣^ス間^ニ其^ノ大^ニ今^ニ伊^ノ勢^ノ勅^ノ勅^ノ飯^ノ高^ノ那^ノ丹^ノ生^ノ山^ノ來^ノ深
山^ノ茂^ノ古^ノ木^ノ自^レ枝^ノ兩^ノ露^ノ如^ク下^ニ米^ノ二^ニ大^ニ躡^テ踏^ス彼^ノ有^リ一^ノ宇
堂^ノ名^ク古^ノ勒^ノ行^ノ床^ノ無^ク灯^ノ火^ノ見^ニ堂^ノ棟^ノ有^リ一^ノ札^ノ實^ク龜^ノ五
季^ノ勤^ノ操^ノ和^ノ向^ノ草^ノ創^ノ見^ニ之^レ弥^ノ布^ノ有^リ思^ノ召^ノ彼^ノ來^ノ臨
檀^ノ那^ノ御^ノ神^ノ在^リ庭^ノ白^ク石^ノ坐^ス空^ノ海^ノ相^テ對^ス宣^ス曰^ク雖^レ預^ス每^レ目
祈^テ念^ス不^レ及^ニ對^テ白^ス吾^レ王^ノ子^ノ高^ノ野^ノ神^ノ以^テ神^ノ獸^ノ令^テ現^ス鎮^ス宅
吾^レ是^レ自^レ天^ノ地^ノ向^テ闢^ス為^テ丹^ノ生^ノ津^ノ姫^ノ為^テ此^ノ山^ノ本^ノ主^ノ吾^レ是^レ
天^ノ照^ノ太^ノ神^ノ宮^ノ妹^ノ也^也其^ノ故^ノ伊^ノ特^ノ諾^ノ伊^ノ特^ノ毋^ノ相^テ談^ス曰^ク吾^レ宮
弟^ノ弥^ノ子^ノ產^ノ生^ノ日^ノ以^テ九^ノ御^ノ手^ノ持^テ白^ク銅^ノ鏡^ノ則^テ化^ス出^ス御

子天照太神宮同九御眼見巡取化生天照太神宮
其神土金水三精一切衆生肉色也皆丹生形為也
此山如意寶珠滴不斷不絕靈地自此上騰氣降
雨露霜雪養万物故天地万物為父母也吾是為
大辨天女八分之身椿津姫吾初女栲幡千千姫
大戸若宮是妙見八幡大人星是イ白王高野大神宮
吾大弟王子伊勢外宮豐氣太神宮共是也其取
高祖曰我於高野山欲建之堂塔先令往此地神
社佛因立又衆生信不信義我如何谷丹生姫曰有衆

生信心有五福田相以五福田得十種德力矣五福田
者第一精進者目二度已利如喜第二孝行者國
王與一切衆生如父母師若忠孝第三慈悲者不論
親疎施與上下若子孫本矣第四信心者推肝膽致
杜衆心中盡信心令神慮歡喜第五萬物與隣者
若欲成我心中存望建之堂塔破壞并垣瑞籬玉
籬者心隨轉願令得福報自由自在矣吾是現
大辨切德天女以八手供八天國家受八神受之轉一粒
一滴充滿山海峯谷與寶財福田若益山福德可

奉祭山口神宮秘祭故不注委細六十六膳可奉備
大海廿一宛飯赤也倫米集七魚三寸幣帛六十六本
大庭山松六十六把積燒奉詠神樂頌打水金具足
成解除身心清淨運步奉祭山口神自吾實宮當
辰巳二十五町半也每季四月晦日柳客來神達者
天神伊弉諾地祇伊弉冉天照皇太神兩宮春神日本
國中大小二十余座山神木神江海龍王八丈竜宮諸
當神等集會此余祀日晝影向吾實宮在此御
魚獸悉皆又每因乳御供八膳白蓋位玄龜足

總三千大千宇福自此山口兩涌出生洎此山洎三東
乾三界此山水銀深廣四力由旬縱廣也風雨順
逆節昭皆以當山十二天取行也故皇豐大天神宮混
此未分常住有太靈志意御座奉成吾勅託三
世諸佛出世本壞一切衆生現當來世直道也何
況奉祈國家安全高祖空海有諸佛菩薩諸
天善神樞要三東一昨有輶轄之自過其遠下
現當日月錄未來永之梵天帝欸四天王等願一晝
夜摩頂奉圍遠國王大臣貴賤上下邪高野太

春日大神宮

神宮高懸三天神宮三神即一土羽瓊命尊也今
住椿山給神是高皇產靈神御女携播十々姫高
野太神宮名言々大戸若宮惟外宮太神宮荒
魂此福田魂神現四辨財天故高祖泰弘仁七歲次丙申設
信心人先授精進人和久田祢直義為一人授孝存々仁
上田祢直佐家又一人授慈悲仁者上津村祢直公重
今一人授信心下津村祢直言兄興隆高祖請取給
深山切分欲建立新佛殿依不知圖於一鳥居起
行三七月仕給令祈念處丹生津姬令來臨歎向

勅記宣言吾正殿如外宮太神宮不可萱萱骨為
守護林示畫衣如鳳池可萱月檜皮給去又建立丹生
高野兩太神正殿三間一字大長茅作社殿正殿
丸椿宮携播官右大戸宮若宮前一殿大已貴
尊仰鑄取宮別示素盞鳴尊牛頭天王佛社
云々六殿四所四人祢直遠祖春日四所在山口上公二殿
亦天照皇大神宮綱言神也一鳥居三丈二尺也
神宮寺勒捺和尚草創同本尊十寸由三麻耶
一千千眼六丈觀音合形作深秘宮在正坐實龜五

歲次 祭主 子老 人化來 兼丹生津姫 初詔奉
庚戌 安置 亦高祖山口 神垂跡 福田涌泉 毘沙門不動
奉 訛作 虛空藏如意輪地藏 勅高祖 御制衣作
鐘樓 經藏法樂舍 實惠僧都 造之 依高祖 二七旨之
行 御跡 六地藏 閻真雅僧都 御造 六跡 地藏中 高
祖 御作 一跡 在之 五跡 真雅作也 初葛城 高野 神
吾栖 居 宣言 今丹生 屋志 呂也 丹生 山神 与 高祖 御
對面 石座 如意輪 觀音 号 深石 如此 造之 社殿 調五
福田 想於 丹生 河原 涌泉 水銀 益 德 然向 人民 郡集

造之家 室棟 並弘仁八年 二万間 造 同九年 二万 家
重去 程山口 祭祀 正殿 奉備 八膳 御供 十二 取中 前
後 諒然 向高祖 定 曰 每月 十日 二十日 御膳 造
軍 可山 曳五穀 之料 下積 可成 祭會 四鄉 人等
每朝 成 解除 任心 泰宮 平路 之 家 富貴 如集
長者 亦未 法 而世 是轉 則調 五福 白相 於人世 以
件 儀軌 者 雖為 濁世 不違 吾誓 願可 潤澤
水銀 此四人 称 宜比 白天津 兒屋 苗 裏也 五口 每
日 在 依令 遊 駕 龜馬 高祖 誘引 而到 上田 野現

四所御次女山口寺二神示宜丹生津姬在御詠歌
曰伊具比依而今平久於毛意天加與仔河蘇婆
如古能上田野能河四羅奴加美我利和与御詠在
還幸不假令雖世末世守伴儀軌割法者現得安
樂子孫長栄當來到上天解脫大果伴儀軌為
末世龜鏡可有丹生山常明寺朝熊岳丹生津姬
請天善神慮授与直註正年高祖空海撰定于
吹弘仁九歲次戊戌四月晦日巳年刻右筆實惠大德書
法務大僧都空海於神護寺作之同皇太神宮

○法華第七軸輕品演

式二本五段南無佛王法守護保持大檀那丹生高
野天照皇豊受兩太神宮遍照金剛力士秘々深
秘藏上田野中在常不輕菩薩塚是祇尊出世
劬這丹生津姬轉常不輕并法華第七軸不輕
品演說給々住昔祇尊佛袈裟衣裳五寶水金令封
納壺給大行車守賀神將菩薩佛堂守護耳
本之於高雄山神護寺弘仁九立久十二日真濟
大德書之云

北畠信成が源國永のの家集よ自三月未つて丹
生大明神へ参り下向戸作るよ上田野とふふと
そあつて

子やう神の湯前よひぬふ然らう四の野そにきり
丹生の川流よ花子んりり枯るるあよもむく
とちうひのあるる

枯れ味本し心の花よはる此まよ夏世のかう
龍名好知りとたのめては念もる人おろりきりん
ころくあま世にともあふんあうれや巻と龍まらちか

イニ曰
丹生ノ泊瀬
ト云神宮寺
ヨリ十八町
門前ニ道
アリト云

丹生の長谷はぬ氣の郡佐村の田多川とも丹を
よつとき世人おろり一里のやうと心なるや今宮よ
記よ松坂より南行程三里半本行天皇此同基
のうーいさる長二丈の土而龍名此者と云ると
丹生より北町計良のい上小六つる七つるのわらうき
りり伊世巡礼の礼所十一番目と云近長谷寺と云
大和ある初瀬の守也もまたおれり一りのり此た
河俣谷

串柿 椎茸 莢茶 椽 黒柿板 樅 梅ノ枝木

如此類此谷よりおれ根田川の水となり

具親 還俗移森城

一 天正四丙子冬具教の会才余らの東山院者
具教生害のしりて終ひに念く事あり
信より南於ともて伊賀の國へ越て長年の家
子おととつてく返るしりて還俗して北畠具親
と名宗と後三洲河侯の氣小傳の諸侯を
らひおれハ傳代ありしと云ふと名曰心

もととくしんに流るよハ栗谷唐橋江馬大内
阿曾山崎大炊助河信若よハ波瀬峯栗
栖田川家野奥村福本栗野岡加桶洲中
五箇六呂木波多丸山副等長谷海道あり
野某三田某之行を京亮等小傳若よハ臼杵後
味名懸堀内丸山松置松田昌村益田馬場重是
新満候中味音小傳若ハ河信若ハなり東山
院の信若あり二心あり思ひ入るけありハ波瀬峯
清院家と近しり毒の成し梅一峯本林

身トヤノヲ屋ヲ尾ヲ右ノ近ノ相ノ監ノ之ノ家ノ本ノ之ノ水ノ守ノ護ノ一ノのノとノは
信ノ推ノ是ノとノ少ノ終ノ以ノ退ノ治ノ止ノとノ之ノ計ノ終ノふノまノり
三ノ洲ノ之ノ水ノ清ノ十ノ而ノ上ノ終ノりノ河ノ侯ノ名ノ之ノ口ノ置ノ大ノ膳ノ
亮ノ之ノ終ノりノ城ノ戸ノ内ノ亮ノ
物ノ上ノ任ノ止ノ小ノ傳ノ告ノ之ノ八ノ洲ノ川ノ三ノ高ノ而ノ多ノ流ノ射ノ上ノ終ノりノ城ノ戸ノ内ノ亮ノ
信ノ守ノ尉ノ長ノ野ノ丸ノ京ノ亮ノ之ノ終ノりノ其ノ名ノ之ノ北ノ之ノ手ノ上ノ定ノ
如ノふノとノとノとノ

河侯谷所之城攻付具親之洛城京木不戦死
一天正四丙子年河侯谷之口置大膳亮上終りぬ公よ

具親婦義共の終りぬふと終り南伽楠九曲峯
富永幸小一候ととも楡籠々も終り口置大膳亮終りぬ
一と終り退治し終り同五年終りぬと終り地獄
中ととも少小取ととも楡籠々も終り信推云終り川
三高而多流射上終り天正信守尉射丸中終り
少傳信守大膳亮上終り攻り河侯谷終り
水登ととも攻我の口置終り川も疝ととも終り
其後和隆ととも終りととも終りととも終り野宮
の兩城ととも口置ととも終り終り終り終り

大將とて攻取あり峯の城とハ本田九郎重
隆平而口置よ加勢とて攻捕て峯の合身
又ハし栗栖とて二人生捕とてとり又鳥
屋尾右近お監うの義長とて富永の城と
攻取とてとり一方手小八郎江の森菊右衛門尉
己下殺め死とと置う喜重とて丸しと
十八軍よ如もつる徳幸よととてつる働
手疵十七とて下つるやうなる名とて以敷存命と
してと置うゆよからぬらつる事とと如とて

具親の指籠とて森の城ハ自置太膳亮とて
秋山芳野無印のちの母とて所の森若守加勢
として攻取ふ城中とてを言とて寺達とて路と
してと大軍入とて攻とる程とて路とてちやて
為のりもつる院家具親もやうくののれおて
中園とて中園とて安藤北毛利とてこれゆ集
細小居住とてとて家木主水祐も森の城とのれ
おてと為のりもつると討手の若急とて追うけおれ
主水祐とてそのほりしとて歎見討彼木とて下

あらまじりもる程よま水ふりりも能あり大智あり
俗し金教よ切てまらりしん追よの者
あまうこ討ましし終よ秋山が侍上座うづまき
新治よ討捕まらりしよ比世の殿よ長野水
ハ謀ウメヒよあ家本よあハ終ま水とまかかれら
剛の者うりもらゆ敬も味方もあしめえ
ハたのりししちりしそ目置河後谷とま
追治しそ七日の市よ城廓とこしん信君
しとねえの我切抜群のヨ男士なりとま

一 瀧野 河俣谷内

元暦元年八月十日和泉守平信兼信執國越前
り城廓と捕て西海の平家小日こまとま
九高判官義経軍兵と指つりしそ攻え信兼
し相あひま信高守と百余人斃然しそ甲冑とねえ
大ウメヒ信脱しぬ格ツメの市よまて殺しし村ハ
しハ義経言の字よちねめ討捕ししちりし
権つまもせれぬ火よのけ信兼こ下自害
しそ突中し焼死せし誠よ義士此ま

しるし

飯野郡

松西黒部

松宮田

松朝田

津松名瀬

時久保

時保津

日腹太

日六根

日莫見

川嶋
新屋敷

日下七見

日上七見

日菅生

日清水

日牛口

日中河原

日高木

日梯田

日和屋

津立利 密田

津伊賀町

津陰陽

津大 豊原

津早馬瀬

鳥小稻木

鳥稻木

鳥伊勢場

津目田

津大 横地

津安樂

津山下 古泉

津山添

鳥土田

津中刀

鳥射和

鳥阿波曾

鳥庄村

鳥御麿菌

松北牧

松中牧

松上牧

松津留

一四十一村 外小村二

一高二万三千三百二十八石九斗六升七合

内

三万五千六百二十四石七斗五升一合 田方

七千七百四石二斗一升六合

鳥方

外高四十九石四斗一升九合

新田

一 射澤村 人家 五百軒 高氏往來繁 輕粉土地

名物延喜或神名帳に依依和神社上之
下宮として二社あり

一 神山一乘寺 松坂より巽 行程二里 中刀村にあり天名宗

位より本尊茶師始末あり天照太神の御

作と云傳正月八日卯月八日隣歸の貴賤系譜

群と十八八月八日と相横あり 住者らと小

伽藍小のら位小堂 六十六字あり 是

あり時修後の仁木義長世地へ及共乱初

悉燒失しと云その後多氣國司より

入るに乃此本堂年與今此茶師堂なり

後景他に異小しとて禁藤一椽田川東

小伊智のうらまゝに異に於能山嶽神路山南

に河俣仁初高山嶽より乘略り一日

ぬらとんて作らに仁木義長も此下とん我

死せりといふ廟碑あり

一 神生山 乳熊寺 松坂より巽 行程二里 中刀村にあり本

寺の子平親善寺家松田川より流ぬみなり

さへ尺余あり、岩あり俗灯明石と云は石上
竜燈本現せりりき順和名乳熊トあり
此所その比民村あり今ハ中力村の
とのちんりき屋三三守三万畝の觀多此堂
ありいりたり

一 高宮

松坂ヨリ巽
行程二里

山源村あり山の水の林兼

一社あり水に此神と云延喜或神名帳
神山の神社と云遷幸要畧垂仁天皇二十
二年癸丑冬十二月二十八日自阿依加宮遷飯

野宮奉齋四箇年又倭姫世記從飯野
高宮遷幸倭禰宮今聖宮太神宮宇治へ
湯治をうらうら前ノ先宮ノ名は
依は此神との名を若くは云ふ

一 首標山

蓮生寺檜田川の邊射澤村小あり真
盛上人宗基ニテ此由敬上人別時念佛及
法談あり村奇特のりありしとたり
の深淵より庭と云新灯本現せりト云

一 檮田川 名在也 河俣谷高見^ミう^子嶽^子り^流流
 里部^ミく^テ十七八里^ノ當^ノ國^ノへ^シい^ハと^ツ二^ツ
 の^チに^ハい^ハる^ガ 檮田村^ノ住^ミ遠^クし^テ里^ニ此^ノ所^ニ
 こ^ノり^もり^も 檮田川^ノの^ハと^ハ檮田川^ノの^ハと^ハ云^フ
 今^レ此^ノ住^ミ遠^ク六^ノ所^ノと^ハい^ハる^ガ 豊^ノ原^ノ村^ノと
 早^ノ馬^ノ沢^ノ村^ノと^ハい^ハる^ガ 檮^ノ田^ノ川^ノの^ハと^ハ云^フ

^各 君^ノし^テい^ハる^ガ 檮田川^ノの^ハと^ハ云^フ 此^ノの^ハと^ハ云^フ 神^ノの^ハと^ハ云^フ 後^ノ相^ノ

後相

一 檮田村遷幸記云 壬辰天^ノ皇^ノ九^ノ年^ノ丙^ノ辰^ノ春^ノ三^ノ月^ノ從^テ飯^ノ野^ノ高^ノ宮^ノ幸^ニ行^ク 倭^ノ姬^ノ命^ノ御^ノ檮^ノ田^ノ洛^ノ給^ニ 支^テ其^ノ所^ノ檮^ノ田^ノ止^メ号^ス給^ニ檮^ノ田^ノ之^ノ社^ノ定^メ賜^ス 支^テ其^ノ延^ノ喜^ノ式^ノ也 檮田神社とあり其^ノ在^リ所^ハあれ^ル 社^ノも^トり^ク絶^シり^セ 後^ノ相^ノの^ハと^ハ云^フ 人^ノと^ハ云^フ 月^ノり^の 社^ノと^ハ云^フ 是^レを^ハ延^ノ喜^ノ式^ノ小^ノ檮^ノ田^ノ 檮^ノ田^ノ社^ノと^ハ云^フ

和宣補任并轉補云 大若子命者天御中主尊十九世之孫也 又^ハ炭^ノ久^ノ良^ノ伊^ノ命^ノ重^ノ仁^ノ天^ノ皇^ノ御^ノ宇^ノ北^ノ秋^ノ退^ノ治^ノ之

賞賜ハタカ大幡オホノボ主命ヌシノミコト天照大神御鎮座之時爲マカシタ大神主令オホノミコトノミコト供奉給ツカササゲル

一 奈々美神社 延喜 神名帳七見村一松 不フ

セ八と云ふてあるなきふのて花とやらして 承 由空四日原國家

久香く袖ととれ一花の花ありハあやとり方未定

一 和尾村 勝田村此有村より御衣の樂人カシ一屋

家ありと近來大丈と云ハ勝田村しとくらの比

うりるとりうりうりうりの比りるりあま

うらやとととらハ毎正月三日四月五日六日式

例して神前よりあのかへ三番叟乃舞示と

奏とりとらハ此美今も延喜御禮社有たき

れの西當村ハあまうりうりうりときと

今もこの御坂と俗といふ

一 保津村 檜ヒノ少シつくりたるははけの

農丈の多寶とせり

一 西馬郡村 松坂より 東西二両村あり此村湊口 行程一里

一 河俣谷より村本トクとらとらとら諸方

南實のりさあり橋田川の裏也二町り
仲りり大船つる

一 麻績機殿

廿口村

松坂ヨリ東
行程二里

俗に上殿と云外宮と云ふと神依機殿大垣内村

とあり下殿と云神名秘書よ八飯野郡井平

歸とありは廿口村ハ廿口歸るヤ一延喜

式よハ多氣郡小入とあり其時迄ハ長田の歸

又岸村とあり一町の麻績機殿なるハ一

其後白河天皇此清守兼曆元年己未十一

月十二日一官名ありて麻績機殿と扶と歸

梅とて十二月六日庚子一柱と建るとなり

は下あり梅とありてハ五百七十八年となり

ゆらりハ社と云系と一ハゆられハ麻績と

云又追十六ハと清系と云下殿と云ハ織作

ゆらりハ亦依と云也儀式棖云此機殿昔纏白

珠城朝建倭姫皇女傳奉太神齋奉飯野之

高宮子時棖殿之長田歸是處立社ヨリ麻績

社亦河崎社是太神御靈ヤ一干後棖殿邊

於岸村是處立社号称岸社ト云々重仁天皇の
麻績棧殿ハ長田此歸小定神彼棧殿ハ宇治
建給ハ〜〜と其後兩棧殿ト流田の宇
村ト稱一岸の社ト云々
又天智天皇此宇小兩棧殿回祿ト
云々四十代の清門天武天皇此宇小兩棧
殿ト各別小建給ハ大災ト候ト給也天智
天皇即位七年八月三日夜依兩棧燒之使
一取造假屋九月佛衣節仕依宣旨也其後

兩棧殿別々立相立各寸丈云々又七十二代の
清門白河天皇此宇小麻績社ト稱
ト稱一岸ト云々舊記之神衣祭者自皇大神
宮佛座高天原之首人由等之遠社天八千々
經殖菜葉於天香山ハ此登之御糸織供進佛衣
故太神佛重跡之列彼神達奉戴兩具御棧
具天降佛座之下降人由職掌人等為其
未葉ハ女子者号織子ハ男子者称人由職掌
不遠天宮之例ハ四九兩月十四日一取言進之御衣

一 眞見村

松坂より東行程二里

遶幸要畧云 御船乘給ト幸行其河濱江介

到坐レ時眞自然集出テ御船參乘ト余時侍

經余見悅給ト其處余眞見社定賜ト云々

は江より糸て幸行し給ひ眞見村より西へハ

船より漕りてゆく給ふやうに云々之眞見村ハ

海道へゆくにまじりてゆく給ふ云々此所を以て

今を名づとん云々云々云々

此時舟に石楯船ト云々云々云々

眞見村ありし今此小島見村の神の田

中よりいづくも池ありて是と程り沈と云

りしと云々いづくも堀ありて所の

長ツ神名の古跡ありていづくも小島あり

四方程の石塚と云々松板と云々いづくも眞見

此社ハ乞もいづくも此神の方松板船よりなる樹

木のうらり横貫向長六る程の社と舟のうら

らり遶水り所の者ハ四方角の社と云々延

喜式神名帳、眞海神社二座ト有、此事一

今四方角ハ一社也相殿小泊（？）と云ふ不知

保津村

松坂ヨリ東一里半（一里半）無（？）人自（？）大神宮（？）一獻膳

六根村

新（？）菜（？）養（？）北（？）菜（？）種（？）六根村ヨリ奉（？）貢（？）と

七見村

魚見村

（北東見トアリ）

一
每霜月廿八日小魚見村の祓（？）豆六根村奉（？）り六根村
めて海作（？）の白（？）田（？）と云ふ（？）一（？）る（？）字（？）子（？）と注（？）連（？）
とひき（？）作（？）ら（？）ゆ（？）るとなりを（？）れ（？）り（？）世（？）島（？）小
不（？）淨（？）と云（？）り（？）と云（？）ふ（？）毎（？）正月（？）廿（？）日（？）と云（？）ふ（？）

村ヨリ駄僕と云ふ一奥見村ヨリ馬と云ふ一

保津村六根村（？）ハ竹（？）筒（？）と云（？）ふ（？）り（？）件（？）の（？）白（？）田（？）の（？）菜（？）

物と云ふ一入（？）件（？）の（？）落（？）と云（？）ふ（？）つけ（？）せ（？）外（？）言（？）一（？）の（？）祓（？）

豆（？）一（？）拍（？）例（？）長（？）官（？）紙（？）と云（？）ふ（？）と云（？）ふ（？）一（？）本（？）紙（？）

二十尺下（？）一（？）紙（？）や（？）多（？）神（？）徳（？）と云（？）ふ（？）は（？）四（？）村（？）の

草（？）物（？）と云（？）ふ（？）一（？）の（？）つ（？）き（？）と云（？）ふ（？）と云（？）ふ（？）一（？）の（？）紙（？）魚（？）

見（？）の（？）馬（？）と云（？）ふ（？）一（？）の（？）紙（？）と云（？）ふ（？）と云（？）ふ（？）一（？）の（？）紙（？）七（？）尺（？）

紙（？）僕（？）と云（？）ふ（？）と云（？）ふ（？）と云（？）ふ（？）

一 光福山朝田寺 新田村にあり本堂五間
半四面也南向正西より石灯籠築水向
鉢押いづ井西鎮守社東庫裏客殿堂を
廊下あり首北取小糟塚の練ひ公と号せしと
ありしと云々此富人多奉地藏菩薩を信
仰せしと也人号曰十九代光仁天皇の
御宇寶龜元年庚戌七月九日のゆゆし
新田と云ふして西のくく上川村のむとん
ゆりしと云々光明赫然カッロシと云ふ靈也ありと云

依のちのいと云々一 煙氣よと云々ゆゆして
見ゆと上川橋なり大なる枯木此瀬に
漂ひゆあり是正こしく詭宮ワカ應護の靈
木なりしといと云々木目して練ひ公ヨシと
と云々我知しよううく持佛を小安を宣し
倡仰をと云々其年延暦十五年三月五日
弘法大師が宮のつわと練ひ公がとと
ゆゆりゆゆ彼枯木と地藏菩薩の直シ後の
刻キとありて秋相アキ漸ヤカ化スるを時時脚の

りてよつりて出血影し大師も木とろき生
身の菩薩よくまうむとそやん彫刻と
終とろく此のふ至干今了勝下ハ六の枯木り
牝鴨かゝれ着くまうの像してまう
糸細縁起よりくとり寺山の号ハ大師の
とろく靈験奇端の事ハありし也今よ
そとろく殿とろくまう殿少く一若寺殿と有
ろくと近來松坂のゆる蒲生氏邸殿取せられ
別寺田の老樹迄成りしとろくと

敬白執陽飯野郡朝田地蔵縁起

現在未來天人衆 吾依 五今殿 勤付囑汝

以大神通方便度 向 今墮在 墮 諸惡趣

欽以南圖浮州大日本國東海道執陽路飯野郡朝
田村又在長者早練公彼長者自知稚取奉宣地蔵
菩薩雖然如是菩薩無本像亦畫像于取實龜元
庚七月廿四日早晨見上川邊五色雲起雲中現光輝
長者成希有思立寄見之長九尺圓六尺計枯木
被引潮浮水上長者成不思議思是取上安宣

持佛堂是号地藏^{菩薩}不断香華不急如是尊重
八七季當延曆十五年^{丙子}季三月五日空海沙門奉
宮兩宮際于百廿四日奉拜生身太神宮祈誓同六月
十六日豐之氣太神宮御池邊在異僧出現向空
海言汝欲拜太神宮自是當辰已在朝熊岳此
山必在^海子來示^此山則虚空藏菩薩障^障障地
在明星水在朝字石在^梅子石在連向池如是放
了化去空海則叱^攀攀上朝熊岳名山灵地殊勝
絕言宜異僧教石異六七日七夜千座護摩^摩結願

畢連向池邊出給白衣童子及忽然^而現及放向
胸示空海即上天給空海杖然^杖杖是即^即兩寶^寶寶章
子也空海心中祈念我所願成就事^事無疑感淚
如雨其日午刻下向朝田村折筭上川塩滿待返不
祿^祿意^意收^收長者宿所^所立^立寄^寄給^給長者對向空海向
長者言^言你有^有守^守本^本尊^尊否^否長者彼^彼浮^浮木^木由^由來^來有^有
舊語申空海奇特思召彼浮木^木一^一刀^刀三^三禮^禮而^而奉^奉
造於地藏面相自^自腰^腰至^至下^下血流空海放下^下刀子云
是則生身地藏也^也非^非浮^浮木^木其^其取^取亦^亦異^異僧^僧出^出現^現言^言汝

知也。不口豐一氣於池邊引導朝熊岳者我世我
則地藏也。上言而化去空海殊成奇特思從是
吾一願滿足無疑者也。抑此地藏名住皆善兒
如來出現於世。取地藏為比丘。於一切要路田地險隘
有不如法妨損車馬。或比皆平。或作橋。或負沙土。
如是勤苦經營。豐佛出世。或有衆生於市中
受人擎手物。我先為擎。至其所詣。放物即行。不
取其直。勤身苦已。利益多衆。亦毗舍浮佛現
在世。取我為負人。不向遠近。唯取一錢。或有
車牛有於泥溺。我有神力。為其推輪。拔其苦惱。
取回大王。延佛設齋。於雨暘平地。待佛毗舍浮來。
摩頂謂我當平心地。則世間地一切皆平。自是我
而心無差。別平等悟心。除經劫釋尊出世。給
在佉羅山大比丘衆萬二千人。俱尔取說。是大乘
無依行。取有帝釋名。無垢生佛告帝。取有菩薩
薩名曰延命地藏。每日晨朝入於諸定。遊化六
道。一切衆生。拔苦與樂。在於三途地獄。此菩薩
見休。取名罪人。生人天生淨土。現世而者。或墮

光

長久女人泰産衆病悉除壽命長遠智恵心
利根財實豊樂衆人愛敬穀米成就神明加
護高買叶心小兒長久除惡夢信我軍我名者現
世無以樂後生佳生極樂無疑者也仍朝田地蔵善
薩縁起如斯

此外地蔵利益無限勝軍地蔵現太權現現住都西愛
宕山而為武家守護神而趣合戰場而殺惡衆
生天下太平也為萬民拂惡難難難難氷々長久也或為
女人成子安与安穩快樂誰人是不仰字

一長田ツクミの社 於田村ツクミの小林ツクミ中より保よつと尾州
野原の内海長田左司忠宗八孫義朝と殺害
して平氏執權此内はくろ川つと見たり
し〜も頼朝卿の政務よつと前非悔て久
〜もこのひて當國よつと〜も〜も
お〜も後鳥羽院中宇建久三年十月吉備村と
斬戮と〜も〜も其西惡魂民向し仇
子よつと〜もあ〜も後ツクミ小社よつと
〜も

多氣郡

東黒部

日 栲木原

日 垣内田

日 し部

日 午草

日 蓮花寺

日 大垣内

日 神守

日 出向

日 土古路

日 川尻

日 北藤原

日 中藤原

日 南藤原

日 中村

日 内座

日 養田
丹川

日 田屋

比志貴

津 暖太 多氣 飯野 比 前野

鳥濱田

鳥 屋木部

鳥 根倉

鳥行邊

鳥 山大淀

鳥 中大淀

鳥依田

依田 鳥 深田

鳥 小藪

鳥馬上

鳥 中海

鳥 坂本

神 竹川
松 金剛坂

金剛坂 松 下尾

神 齊宮

神 上野

安養寺 茶屋
上野ノ内

神 鱸尾

湯田 彌 松 下有介 明野 茶屋
百介ノ内

松 叢村

松 中村

松 上村

松 池村

松 岩内

松 下河田

松 上河田

松 赤國

松 東池上

松 西池上

松 兄國 一色 張湯

松 苙牧

神 相可

松 四足田

松 三足田

松 中村

松 林村

松 井内

松 依伯

松 長谷

松 神坂

松前村

日五桂

日西山

日箕床森出

日田中

日西相原瀬

日朽原

日古江

日波多瀬奈古

日神瀬

日栗生

日長介

日上三瀬

日焼飯

日平谷

日油支

日五伏奈

日出羽

日野中成川

日千代

日色太三ヶ野

日片野

日車川

日下楠

日奈良井

日三瀬川

日舟木

日焼飯園井

日仁田

日四神田

日矢田

日森庄

日東相原瀬

日柳原

日土屋

日朝柄

日白粥見春

日上楠

日高瀬

日下三瀬

日依原

日河合

松下菅

日赤瀧

日下真幸

小切畑
日浦ヶ谷

日蘭村

日熊内クモチ

日大井オホイ

日上菅

日清水シメジ

日本田木屋

日繪馬エマ

日平野

日唐櫃カボク

日明豆アカアヲ

日菅木屋

日上真幸儀飼

日小切畑コキエ

日天ヶ瀬テンカセ

日茂原モハラ

日南村

日栗ヶ谷トリス

日菅屋木屋

日御棟ミツタテ

日小瀧

日神籠カクシ

日瀧屋

大森
日岩井

日檜原

日久豆

日奥大森

ト百三拾三村

内ニケ村一所ニ兩村宛有
外小村八

一高三万八千二百四拾九石五計五律四合

内 二万三千八百六十四石六斗二律七合 田方
一万四千三百八十四石九斗一律七合 畠方

外高一千三百七十石五斗貳律六合 新田

一弘治元年¹⁵¹⁹卯十二月多氣郡沙交の住人野

呂三郎飯高郡備田の住人吉田五郎春房(對南)
住持也之、前々此あまき者数百人とかく、
私に徳政といひ借物と云償せしと若くは
うりのあまき、押あかして遊坊根藉と
謂^カ吹^カ岡^カ成^カあけ^カてに放火と一^カ筋^カな
宮北^カ成^カる^カ杉^カ籠^カも^カる^カ依^カる^カも^カる^カ法^カ生^カ池^カ向
を^カと^カ攻^カじ^カ又^カを^カ向^カり^カ一^カ族^カ隣^カ尾^カ此^カ智^カ積^カ寺
の^カ地^カより^カれ^カの^カ地^カを^カ一^カ智^カ積^カ寺^カと^カし^カる^カ家^カの^カあり

して信同教小八河守折良他引と初て
込初務るの事女子と人借り捕て務るる
勢りて池分い政なり信り出るとし
のあひひゆるり信中おはまつ尉倫今も
信名をり右より尉助を打て討るる
曰ハ之事少事とせしめて交はれと
武剛の務るるものありし家イヌ
とありやわはれを信合てあつて
とありしやうし

一五箇ノ後ハ朝柄村のりふあり杉原の南の行軍

は紀列美の海

具親ハク親ハク親ハク

天下十五午の北高具親弼南信勝に到り

信を非多今安原之苑か物存ハ大船助と
かこひ海兵と奉つてまじ傷々の由は
五箇六品を佐奈とあみせ村和のち
は同じして十二月晦の夜をよぶ火
五箇ノ後ハの地は務るる一六回十一
冬ノ正月朔日津川を昔ノ取口を中勢あり

日皇大服竟^イ古^イた京亮^イ下^イみ^イ向^イ一^イ高
城とある^イ政^イ終^イ果^イ親^イ不^イ叶^イして^イ日^イ二^イ城^イヲ
あ^イて^イ信^イ賀^イ此^イを^イ一^イ撥^イと^イか^イら^イふ
ふ^イと^イて^イ流^イす^イ所^イの^イく^イら^イと^イさ^イれ^イた^イ功^イと^イ感^イ一^イ
あり^イ編^イり^イ此^イを^イ分^イに^イ使^イふ^イか^イれ^イた^イ所^イも^イあ^イら^イぬ
三^イ所^イち^イ系^イと^イす^イ所^イ之^イ流^イ流^イ分^イと^イ云^イふ^イの^イよ^イ
は^イて^イそ^イと^イ対^イ極^イと^イす^イ

一 齋宮分^イ其^イ事^イ宮^イ川の^イ西^イに^イお^イけ^イし^イと^イ人^イと^イと^イと^イと^イ

私日
大足彦忍
代別天皇
人皇十二代
景行天皇
御事十一

云^イ系^イ又^イ此^イ代^イを^イた^イり^イ宮^イを^イと^イひ^イと^イを^イす^イ
多^イ守^イ神^イと^イ多^イ氣^イ神^イに^イ倭^イ姫^イ年^イ世^イ記^イ曰^イ興^イ齋^イ
宮^イ于^イ宇^イ流^イ縣^イ五^イ十^イ銓^イ河^イ上^イ大^イ宮^イ隆^イ人^イ之^イ倭^イ
姫^イ年^イ長^イ年^イ三^イ十^イと^イ多^イ氣^イ神^イよ^イ移^イす^イ所^イ同^イ
世^イ記^イ曰^イ大^イ足^イ彦^イ忍^イ代^イ別^イ天^イ皇^イ此^イ年^イ及^イ言^イ歲^イ
倭^イ姫^イ年^イ年^イ既^イ老^イ者^イ不^イ能^イ仕^イ吾^イ足^イ忍^イ迄^イ迄^イ迄^イ大^イ
齋^イ内^イ親^イ王^イ仕^イ奉^イ物^イ部^イ八^イ十^イ氏^イ人^イ令^イ定^イ給^イ天^イ
十^イ二^イノ^イ司^イ寮^イ官^イ等^イ遠^イ奉^イ移^イ五^イ百^イ距^イ皇^イ女^イ

久須姫命 昂春二月辛巳甲申遺五百野皇
 女於皇大神乃御杖代多氣宮遠奉天
 齊慎矣令侍給支伊勢齊宮那行此是
 也安倭姫命命宇治機殿乃磯宮坐給
 信奉日神祀古無倦正之云云正説ナリ
 又神名秘書云右此世記の文とまて又事の
 朱註云重仁天皇御宇始建磯宮後
 徳天皇御宇始建離宮院天武天皇御
 宇更此遷建之林續枝殿淳和天皇天

長二年始建多氣齊宮宮之齊宮なり
 上ノ人々ノ多ク人皇十代此御門山宮補天皇
 此皇女を勅入姫よりけりより此十二代此帝
 重仁天皇の御宇倭姫の命平鈴の川
 此を今此大宮よ齊宮とまて大神一
 みやつゝみ多の十二代景行天皇此宮より
 大御宇皇女よりゆり給のけしめを熟
 齊宮と給て建りしなりかくて七百
 二十四年と云ふ十三代のみよと倭和天皇

天長元年^{甲辰}年秋九月、太神宮へ行程
をさきしり、湯下^{ミツクラ}へありて、度会郡湯田^{ユヅ}の湯
宇^ウ羽^ヒ西^ニ村の離宮へ、芥^{カイ}と稱す、此十六日、
しり、ゆへり、み^ミ十四代のみ、しり、明天皇の
西宮、永和六年^{己未}十一月、卯^卯朔、月^月、芥^芥言^言火
災ありて、官舎二百余に焼失し、り、
又西下ありて、り、り、り、り、り、り、
在、白ありて、ゆへり、ゆへり、ゆへり、
十代の西宮、後^後院の、白^白子^子ゆ^ゆ、
ふ^ふ、
は^は、
あ^あ、
の^の、
そ^そ、
親^親、
し^し、
親^親、
神^神、

ふまて、七十八代ありて、り、り、り、り、り、り、
は、
あ、
の、
そ、
親、
し、
親、
神、

子ハ外宮の文彦の凡いしと少山よ田上東二天村
西三余
大水西三此社の前社といひていつく水鏡あり
小夏モ宮子も神宮小切ありとと重重キニ
小夏費しして後大和の寶山より靈石と
ち給り東國の民小作て此石屋と作り
塚とつも少夏の石屋も同宮子と合せま
つりりひと二座より田上大水ハ度會の
宮ミヤ取携十六座の心の其一社なりかりし
凡人の女メ計ハシまゝとて終ふも計なり終六

十三代ハ皆白皇女也其代此社肉親とを
の次才ハ神皇雜用先規ととく同式法
の次才ハ御式と戴イサつるもととくし
畧くくそ白皇女此は齊北奇まへとく終ふと
てハハハハの媛ハハハの御院ハ入ありて御ミコ繁シガラ
齊ありてのち信習シノブ下向ありととく
信成物終神本此也ととく奉あり將子肉親と
しり終そ今もすて三百六十余ととく及下古
の築比ツキヒの清スガ秋アキととくととく民の御ミコととく

野まりし汝宮の庚申し竹のよし松風入
夜琴しと題と讀むを

拾遺雜 新古今雜 吹今志音に家此松風やよじしるまの松より汝宮柳

新古今雜 柳の野の言今食うつるまをうし秋よあ

山家雜

別又汝の宮此つるれて返連のうらよらりと
西行

このことにて汝の言にあまにけりてうらやむ久や竹のま

久の如竹の終かやうてうたに汝のまの右よのうらやまを

一多と乳群 付竹宮 是と汝宮村あり也齊田

親こしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし

と多と乳のましうん多と乳の都しうしうし

宮と都日家あしうしうしうしうしうしうしうしうしうし

竹と根越しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし

又今ハ竹の終竹のましうしうしうしうしうしうしうし

説に月しうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし

吳竹のましうしうしうしうしうしうしうしうしうし

藤原系よ云竹のまは雜し植てと仰り伊勢の神社

とらりし納言系神

やまもも竹ノ節のりとりり女美の詔ハ右よこし

^右思くは竹の節ハ信つてまめの外にる名代のの氣又と

後頼

思はれり竹の節の右あまさんく川しきヤとくま
しそしる 後頼

右一有少言石名子合奇

一 萬川 舟宮村トあり奇なりく今川とふ

魚を程しちんらとあまを女小流せ終る

のふらりよ可計 東ト小橋ありそく

一 今も萬川のり

^{後頼}萬川のりよとりつてつる昔の方代とふ

秘本奇歌集り一此奇れあまの信習少まよ

ゆらゆらあるとありトきし

^右名よそそ恨やせり萬川れせにる竹のあめ
うれや 九条有春

一 繪馬 齋宮トあり毎歳元月鶴鳴トあり

言例ありしき 終ト福とつけく川をく

し叢并砂金袋と書 終るなり

世福のよまらん其年此田高書山の相

と見るる——古本より世俗後に作り作ら
はかく川里——則本として例も今も
書師と深秘として世繪こののり示人の
後よ年よりとりつて河原の人の如き

一宇田 秋喜村の南なる小村の乾よる田舎
の字あり二小石計の竹ふり但今宇田の
里ハ——秋喜の小村に河原のことく
耕作よるり

唱
歌花伝標

唱よ宇田のころりまのんひく言や一丁代の歌
此秋此の書教り小寄歌集り停留秋喜の
竹むら宇田のり方と曙り鳴のんひく
音の——もるあつて——めりき

一竹河 秋喜北西近中も延喜式に秋喜歌
此時はあめそ前鎮まちの権いあり——んひく
歌花伝標竹河の橋あつたり花園に秋喜ハあせめりき
は秋ゆりきとて馬うま樂ら此呂歌

ようふとこしつらに回しつらり海内は國の國の國
久あり其行川と語らるるしリナリテシ梁塵秘抄セ葉
瑞草等より下りる水と高國行河と今も
後ゆき母美のまじしきもさかた橋をありし
ことりりそのちうさ程も今も花雪と云ふ所
皆赤民北田白田よりなるしハ水は古の花
雪のありと此らかしと橋ハと云ふとけり
まじしは行河の橋此つゆある花雪と云ふと
し高國の行河ありしとあるひもこれなり

ゆきん古の行河北歌家よと古傳ゆき
うじし彼傳物語よつゆありしとけり
しもや思ふ所のありしとけり
竹河名亭や折こさよと見よんけりハの京の松ハ

隆心法師

一藤原村 松原より東 行程二里 北邊遠流して二所程舟航

一清炭山 名取也古名京村より天子乃御車
年とやしとけりしと見よんけりハの京の松ハ

十三箇月ありしり獻しとるなり又毎歲六月十七日九月十六日

六月十六日九月十六日

此式秘密此儀といひて藁ハル小てとる

外宮

此儀一ツ宛あま此儀殿一獻納せりはつと

何れ物とつとつと人より一獻之者秘

密此禊重とる子孫相續勅行ストと此

神祭之呪有尔村ヨリ童子十人計鷄冠ヲ

蒙り兩神拜しテヒヨミト云詞ヲ唱トる俗ニ

ヒヨミノ祭礼ト云

神名帳ニ字令神社

一 ^{板所ノ字歟} 稲本川のありしり

所禊東の林内ノ社あり伊勢祭主と宮

冬終りチノありゆる時ナツル櫛板ト云

あり候ハシヨヨ本ノり進獻しとる恒例と云

一 摩尾山金剛座寺 ^{晃ヨリ西} 神板村ノ上ノキ

行程ニ里

木尊如意輪觀音也鎌足大臣建立ト云讚烈忠度

ノ甫ニテ珠ヲ得テニテ祈哲言成就ニ依テナリト云

執巡礼ノ礼取十番月依奈ノ金剛山トイフ

巡礼哥
若らり菩提の樹をとりてかゝるおし佛のうけをゆり

一 相麻瀬村 田凡ヨリ 太神宮の御供田一及有涉奉

夏トシテ毎式端午ニ山蕨葛蒲草欵冬茗荷此

五種ヲ内宮長官ト進献トス也遷幸要畧之

大河瀬渡給止為尔鹿完流相及是恩詔不度

坐其瀬相鹿限止ヨリ云々

一 笠木村 畏ヨリ西 遷幸要畧之御船神社定給從

其所奉行時御笠服給其所半加依仗止ヨリ云々

一 依那神社二座 神名帳有依奈内仁田あり

一 竹依之江神社 神名帳一根倉村あり

一 相鹿牟山神社二座 神名帳 相可村あり

一 林神社 神名帳 林村あり

一 濱田村根倉村西大濱 又中 中大濱 他東大信ハ度會

伊予ノ海道ニちヨリ村ナリ 遷幸要畧ニ云ク

御饗食奉神參相与汝国名何向給白久白濱真名

胡

胡國止白其所真名胡神社定賜支從其幸
行^{○天年度ニ}依々^{○天年度ニ}年江^{○天年度ニ}御船泊給比其所依々年江宮
造令坐給^{大興度}大若子命白身之真野國止國保
依白其所依々年江社定給從其所幸行
向尔^{○天年度ニ}云風彼^{○天年度ニ}海塩大与度養^{○天年度ニ}御船
而令幸行其時俤^{○天年度ニ}命悦給^{○天年度ニ}其濱^{○天年度ニ}大与度
社定給^{○天年度ニ}
如^{○天年度ニ}此^{○天年度ニ}水^{○天年度ニ}白濱^{○天年度ニ}大^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}一^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}り^{○天年度ニ}ぬ^{○天年度ニ}前^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
今^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}村^{○天年度ニ}を^{○天年度ニ}久^{○天年度ニ}一^{○天年度ニ}南^{○天年度ニ}國^{○天年度ニ}此^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}白^{○天年度ニ}良^{○天年度ニ}濱^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}

取^{○天年度ニ}り^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}る^{○天年度ニ}人^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}真^{○天年度ニ}名^{○天年度ニ}胡^{○天年度ニ}神^{○天年度ニ}社^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}内^{○天年度ニ}宮^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}末^{○天年度ニ}社^{○天年度ニ}五^{○天年度ニ}十^{○天年度ニ}番^{○天年度ニ}同^{○天年度ニ}也^{○天年度ニ}
芳^{○天年度ニ}取^{○天年度ニ}祓^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}白^{○天年度ニ}岐^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}る^{○天年度ニ}る^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}由^{○天年度ニ}根^{○天年度ニ}上^{○天年度ニ}移^{○天年度ニ}る^{○天年度ニ}也^{○天年度ニ}
月^{○天年度ニ}紀^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
月^{○天年度ニ}夜^{○天年度ニ}一^{○天年度ニ}日^{○天年度ニ}根^{○天年度ニ}倉^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
は^{○天年度ニ}奇^{○天年度ニ}此^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
又^{○天年度ニ}紀^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
又^{○天年度ニ}延^{○天年度ニ}喜^{○天年度ニ}式^{○天年度ニ}神^{○天年度ニ}名^{○天年度ニ}悵^{○天年度ニ}竹^{○天年度ニ}依^{○天年度ニ}々^{○天年度ニ}年^{○天年度ニ}江^{○天年度ニ}神^{○天年度ニ}社^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
五^{○天年度ニ}十^{○天年度ニ}四^{○天年度ニ}番^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}
日^{○天年度ニ}一^{○天年度ニ}日^{○天年度ニ}入^{○天年度ニ}江^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}後^{○天年度ニ}も^{○天年度ニ}以^{○天年度ニ}し^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}て^{○天年度ニ}御^{○天年度ニ}の^{○天年度ニ}と^{○天年度ニ}なり^{○天年度ニ}む^{○天年度ニ}

後ありとと藤原の後と云

又神名帳、作大與六掃神社とあり、由宮未社五十六卷目也。大信三ヶ村有、内一東大信、一度會熟なり、古寺と云、大信の松、西大信の里、此あたりに古松ありと云

拾遺

大信のこきもあや代よあねと云、神名、大信の浦の松なり

保業隆

新古今

大信、此松につくもあつたにうつくすてのこきもあや代よあねと云、伊カクシス

清人不知

日

大信の浦よあねと云、此松のつらぬ久と云、女帝御子生王

女帝御子生王

日

大信の浦よかりあねと云、此松のつらぬ久と云、定家

定家

風雅

大信の浦のつらぬ久と云、若代の松よあねと云、此松のつらぬ久と云、後代

後代

新古今

大信のつらぬ久と云、此松のつらぬ久と云、大綱言為定

大綱言為定

新拾遺

大信の浦よりあねと云、此松のつらぬ久と云、正三位和家

正三位和家

家集

大信の浦よあねと云、此松のつらぬ久と云、北畠親房

北畠親房

人皆大信の松よりあねと云、北畠親房

大信の浦よあねと云、此松のつらぬ久と云、北畠親房

北畠親房

大信の浦よあねと云、此松のつらぬ久と云、大信松

大信松

大信の浦よあねと云、此松のつらぬ久と云、大信浦

大信浦

大信の松よあねと云、此松のつらぬ久と云、大信松

大信松

神服棧殿

大垣内村

松坂ヨリ東
行程二里

俗下館宮内宮爲スト云麻績棧殿ハ井口村ヨリ
乞とん上館ノ宮ト云神名祕書ヨハ在飯野
郡流田郷服村トあり郡ハ遠クハ大垣内
村ハ今も服野のつとまあり近來流田のつ
つらつらハと只云て服野アと云多氣
郡ノ入々服野存カニ麻神社トあり乞とん
町代ヨリ郡境モ習リ約ハ一
棧殿の社ヨハつらつらあり一
宇治ヨリ一と人皇二十三代清寧天皇
の御宇ヨリ下ノ御給高年迄多百七
十七年也神名祕書云云仁天皇二十六
興齊宮千宇治五十鈴川上之大宮際今倭
姫命居正立昂庭ハ尋棧屋令天棚棧姫神
具子孫八千々姫令織大神御衣磬言猶在天之
儀正立謂正立宇治棧殿是也乞ハ宇治ノ棧殿
之川ノ事ト云也又推畧天皇ヨリ信九三年己
未

歳春二月倭姫命自退尾上山峯ノ隱坐以集

清寧天皇御宇遷于神服社遷きこも
治の棧殿と昭毅村へうつりこも
後麻績棧殿長田のつよありこも
うつりこも程多火災と傳て兩社
焼失せしこも兩社のる文武と隔て建給
又白河御宇麻績棧殿とい井千ノ里へ移り
こもこも西御衣と織りこも始天照
太神高天原へありこも時天八千々姫
命を教て天香山へ來と殖て墾こも

西京にありこも
其勤仕へ又け昭々へ移りこも
日月十四月九月十四日小治衣の祭ありて
和妙荒妙の西衣とこも也乞と勤仁
こも天八千々姫の末孫めを男子人
西の織衣とつひ女子織子とて其目ハ三貞
此宮同木雅宮流すを治衣の西衣とあり
宮川めを治板とありつこも也つと
事こも言余の其神のありこも

武
西殿幸此役人等もく依々村馬の上村を
横殿のりて神威もいとにまこころし
貴家从とありり下ありりし神威を文
禄年中の捨死しあはれやしく社地
あつて河原方のりて古の形討めり
本社の東寶殿ハ八幡西寶殿ハ春日也
升頂の外ハ武官ハ八幡の横殿あり今に
は内に横殿の道具ありしとき諸社のニ奉
云こ社ありき存のりて櫻本此りてハ本也

めそはまのりひとつてぬくもありき
井の外ハ洋殿ありきとくはあしと
やとちりもはと方此代官佐野平蔵
某少く修補と加つてしりてあり
井に竹の麻（麻）社（社）多とつてり下村り
ある社（社）敏（敏）とて沙衣と深ありりて古例なり

未詳

